

令和7年度  
学校評価アンケート結果  
(令和7年12月実施)



秋田県立西仙北高等学校

## <内 容>

- 1 質問項目    1 生徒用  
                  2 保護者用
- 2 学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者）
- 3 生徒保護者自由記述

## 【質問項目】

### 1 生徒用

#### A 教育活動全般

- 1 学校から、皆さんにどんな生徒になって欲しいのか伝わっていますか。
- 2 西仙北高校に入学して良かったですか。
- 3 皆さんが困ったとき、先生方は親身になって相談にのってくれますか。
- 4 毎日楽しく登校していますか。
- 5 基本的な生活習慣やルールやマナーの意識を身につける適切な指導がされていますか。
- 6 学校の教育や指導に満足していますか。

#### B 学習指導

- 1 教科担任は学力向上につながるわかりやすい授業をしていると思いますか。
- 2 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。
- 3 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。
- 4 朝活動は充実した時間となっていますか。
- 5 定期考査の問題は、身についた学力を確かめることができるものになっていますか。

#### C 進路指導

- 1 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていると思いますか。
- 2 本校は、進路指導の計画や内容をわかりやすく示し、相談機能が充実していると思いますか。
- 3 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。

#### D 学校行事等

- 1 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していると思いますか。
- 2 学校祭、体育祭等の学校行事に意欲的に参加していますか。
- 3 生徒会活動やホームルーム活動に積極的に参加していますか。
- 4 地域と連携した行事（大綱米プロジェクトなど）やボランティア活動に積極的に参加していますか。

#### F 生徒指導

- 1 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。
- 2 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。

## 2 保護者用

### A 教育活動全般

- 1 本校は、学校の教育方針をわかりやすく伝えていていると思いますか。
- 2 西仙北高校に入学させて良かったですか。
- 3 本校は、生徒が困ったとき、親身になって相談にのってくれていると思いますか。
- 4 お子さんは毎日楽しく登校していると思いますか。
- 5 本校は基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるための適切な指導ができていると思いますか。
- 6 本校の教育や指導に満足していますか。

### B 学習指導

- 1 本校はわかりやすい授業を目指し、学力向上につながる適切な指導をしていると思いますか。
- 2 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。
- 3 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。

### C 進路指導

- 1 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていると思いますか。
- 2 本校は、生徒の進路志望の実現のために面談など家庭との連携を図っていると思いますか。
- 3 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。

### D 学校行事等

- 1 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していると思いますか。
- 2 学校祭、体育祭等の学校行事は充実していると思いますか。
- 3 生徒会活動やホームルーム活動で生徒が主体になった活動が多いと思いますか。

### E 学校との連携

- 1 家庭と学校の連携は十分にはかられていると思いますか。
- 2 HPや「西高だより」によって本校の活動が地域によく伝わっていると思いますか。
- 3 PTA活動（PTA総会、学年PTA等）は適切に行われていると思いますか。

### F 生徒指導

- 1 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。
- 2 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。

令和7年度 学校評価  
生徒アンケート集計

5: そう思う 4: どちらかといえばそう思う 3: どちらかといえばそう思わない  
2: そう思わない 1: わからない

		調査人数	1年	7	2年	4	3年	14	合計	25										
分類	設問	学年	5	4	3	2	1	学年別 平均点(昨年)	5	4	3	2	1	R7 平均点	比較	R6 平均点	R5 平均点			
			(5点)	(4点)	(3点)	(2点)	(1点)													
A 教育活動全般	1 学校から、皆さんにどんな生徒になってほしいのか伝わっていますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (3.5)	4	8	4	0	5	▽	3.29	↓↓	3.61			
		2年	0	1	0	0	3	1.8 (3.9)												
		3年	3	5	4	0	2	3.5 (3.4)	19.0%	38.1%	19.0%	0.0%	23.8%							
	2 西仙北高校に入学して良かったですか。	1年	1	0	2	0	0	3.7 (3.5)	5	8	5	3	0		3.71	↑↑	3.39			
		2年	1	2	1	0	0	4.0 (3.4)												
		3年	3	6	2	3	0	3.6 (3.4)	23.8%	38.1%	23.8%	14.3%	0.0%							
3 皆さんが困ったとき、先生方は親身になって相談にのってくれますか。	1年	1	0	2	0	0	3.7 (4.8)	7	8	4	1	1		3.90	↑↑	3.64				
	2年	2	2	0	0	0	4.5 (3.6)													
	3年	4	6	2	1	1	3.8 (3.4)	33.3%	38.1%	19.0%	4.8%	4.8%								
4 毎日楽しく登校していますか。	1年	0	2	1	0	0	3.7 (3.5)	2	10	5	4	0		3.48	↑	3.42				
	2年	1	1	2	0	0	3.8 (3.0)													
	3年	1	7	2	4	0	3.4 (3.7)	9.5%	47.6%	23.8%	19.0%	0.0%								
5 基本的な生活習慣やルールやマナーの意識を身につける適切な指導がされていますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (3.5)	7	8	2	1	3		3.71	↓	3.81				
	2年	0	2	1	0	1	3.0 (4.0)													
	3年	5	5	1	1	2	3.7 (3.7)	33.3%	38.1%	9.5%	4.8%	14.3%								
6 学校の教育や指導に満足していますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.3)	6	10	3	1	1		3.90	↑	3.72				
	2年	0	4	0	0	0	4.0 (3.6)													
	3年	4	5	3	1	1	4.7 (3.7)	28.6%	47.6%	14.3%	4.8%	4.8%								
B 学習指導	7 教科担任は学力向上につながるわかりやすい授業をしていると思いますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.8)	9	9	1	1	1	○	4.14	↑	4.03			
		2年	1	3	0	0	0	4.3 (3.9)												
		3年	6	5	1	1	1	4.0 (4.0)	42.9%	42.9%	4.8%	4.8%	4.8%							
	8 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (3.8)	9	10	0	0	2	○	4.14	↑	3.94			
		2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.7)												
		3年	4	8	0	0	2	3.8 (4.2)	42.9%	47.6%	0.0%	0.0%	9.5%							
9 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (3.5)	10	7	1	0	3		4.00	↓	4.08				
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.1)													
	3年	6	4	1	0	3	3.7 (4.2)	47.6%	33.3%	4.8%	0.0%	14.3%								
10 朝活動は充実した時間となっていますか。	1年	1	1	1	0	0	4.0 (4.0)	5	6	4	1	5	×	3.24	↓	3.36				
	2年	1	0	0	0	3	2.0 (3.6)													
	3年	3	5	3	1	2	3.4 (3.1)	23.8%	28.6%	19.0%	4.8%	23.8%								
11 定期考査の問題は、身についた学力を確かめることができるものになっていますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (4.3)	8	9	2	0	2		4.00	↓	4.11				
	2年	1	1	2	0	0	3.8 (4.3)													
	3年	6	6	0	0	2	4.0 (3.9)	38.1%	42.9%	9.5%	0.0%	9.5%								
C 進路指導	12 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていますと思いますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (3.3)	6	10	1	1	3		3.71		3.72			
		2年	0	3	0	0	1	3.3 (4.2)												
		3年	5	5	1	1	2	3.7 (3.4)	28.6%	47.6%	4.8%	4.8%	14.3%							
	13 本校は、進路指導の計画や内容をわかりやすく示し、相談機能が充実していると思いますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (4.8)	9	7	2	1	2		3.95	↓↓	4.22			
		2年	2	2	0	0	0	4.5 (4.4)												
		3年	6	3	2	1	2	3.7 (3.9)	42.9%	33.3%	9.5%	4.8%	9.5%							
14 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。	1年	1	1	0	0	1	3.3 (3.5)	10	5	1	0	5		3.71	↓↓	4.03				
	2年	1	1	0	0	2	2.8 (4.4)													
	3年	8	3	1	0	2	4.1 (3.9)	47.6%	23.8%	4.8%	0.0%	23.8%								
D 学校行事等	15 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していますか。	1年	0	2	1	0	0	3.7 (3.3)	6	6	3	3	5	×	3.22	↓	3.44			
		2年	0	1	1	2	2	2.2 (3.5)												
		3年	6	3	1	1	3	3.6 (3.4)	26.1%	26.1%	13.0%	13.0%	21.7%							
	16 学校祭、体育祭等の学校行事に意欲的に参加していますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.5)	11	6	2	0	2	○	4.14	↓	4.33			
		2年	2	2	0	0	0	4.5 (4.4)												
		3年	7	3	2	0	2	3.9 (4.3)	52.4%	28.6%	9.5%	0.0%	9.5%							
17 生徒会活動やホームルーム活動に積極的に参加していますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.5)	9	7	1	1	3		3.86	↓↓	4.19				
	2年	2	1	0	1	0	4.0 (4.0)													
	3年	5	5	1	0	3	3.6 (4.3)	42.9%	33.3%	4.8%	4.8%	14.3%								
18 地域と連携した行事(大綱米プロジェクトなど)やボランティア活動に積極的に参加していますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.0)	12	6	2	0	1	◎	4.33	↑	4.17				
	2年	2	2	0	0	0	4.5 (4.0)													
	3年	8	3	2	0	1	4.2 (4.3)	57.1%	28.6%	9.5%	0.0%	4.8%								
F 生徒指導	19 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。	1年	1	1	0	0	1	3.3 (3.8)	6	8	2	0	5		3.48	↓↓	4.00			
		2年	1	0	0	0	3	2.0 (4.4)												
		3年	4	7	2	0	1	3.9 (3.8)	28.6%	38.1%	9.5%	0.0%	23.8%							
20 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。	1年	1	1	0	0	1	3.3 (4.5)	7	6	1	0	6	▽	3.40	↓↓	4.03				
	2年	1	0	0	0	2	2.3 (3.9)													
	3年	5	5	1	0	3	3.6 (4.1)	35.0%	30.0%	5.0%	0.0%	30.0%								

今年度全体平均より「+0.5→◎」、「+0.3→○」、「-0.3→▽」、「-0.5→×」  
各項目の昨年(上段)、一昨年(下段)平均より「+0.25→↑↑」、「+0.05→↑」、「-0.05→↓」、「-0.25→↓↓」

※割合は有効回答者数合計に対するもの R7 R6 R5

全体平均	3.76	3.86	
------	------	------	--

令和7年度 学校評価  
保護者アンケート集計

5: そう思う 4: どちらかといえばそう思う 3: どちらかといえばそう思わない  
2: そう思わない 1: わからない

		調査人数	1年	7	2年	4	3年	14	合計	25							
分類	設問	学年	5	4	3	2	1	学年別 平均点(昨年)	5	4	3	2	1	R7 平均点	比較	R6 平均点	R5 平均点
			(5点)	(4点)	(3点)	(2点)	(1点)		5	4	3	2	1				
A 教育活動全般	1 本校は、学校の教育方針をわかりやすく伝えていていると思いますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (4.8)	7	8	2	1	1	4.00 ↓↓		4.37	
		2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.0)									
		3年	3	5	2	1	1	3.7 (4.6)	36.8%	42.1%	10.5%	5.3%	5.3%				
	2 西仙北高校に入学させて良かったですか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (4.5)	9	7	1	2	0	○ 4.21 ↓		4.43	
		2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.1)									
		3年	5	4	1	2	0	4.0 (4.7)	47.4%	36.8%	5.3%	10.5%	0.0%				
3 本校は、生徒が困ったとき、親身になって相談のつてくれていると思いますか。	1年	0	3	0	0	0	4.0 (4.8)	6	8	1	3	1	3.79 ↓↓		4.40		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.3)										
	3年	3	4	1	3	1	3.4 (4.4)	31.6%	42.1%	5.3%	15.8%	5.3%					
4 お子さんは毎日楽しく登校していると思いますか。	1年	1	0	2	0	0	3.7 (4.5)	3	4	4	4	1	3.63 ↓↓		4.14		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.8)	8	2	4	4	1					
	3年	4	1	2	4	1	3.5 (4.4)	42.1%	10.5%	21.1%	21.1%	5.3%					
5 本校は基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるための適切な指導ができていていると思いますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (4.5)	8	8	1	1	1	4.11 ↓		4.31		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.1)										
	3年	4	5	1	1	1	3.8 (4.5)	42.1%	42.1%	5.3%	5.3%	5.3%					
6 本校の教育や指導に満足していますか。	1年	0	3	0	0	0	4.0 (4.5)	6	9	2	1	1	3.95 ↓↓		4.29		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.0)										
	3年	3	5	2	1	1	3.7 (4.5)	31.6%	47.4%	10.5%	5.3%	5.3%					
B 学習指導	7 本校はわかりやすい授業を目指し、学力向上につながる適切な指導をしていると思いますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.8)	8	6	0	2	3	3.74 ↓↓		4.31	
		2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.1)									
		3年	3	4	0	2	3	3.2 (4.4)	42.1%	31.6%	0.0%	10.5%	15.8%				
8 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (4.5)	7	8	1	0	3	3.84 ↓↓		4.31		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.2)										
	3年	3	5	1	0	3	3.4 (4.4)	36.8%	42.1%	5.3%	0.0%	15.8%					
9 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。	1年	0	2	0	0	1	3.0 (4.8)	4	9	0	0	6	× 3.26 ↓↓		4.17		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.0)										
	3年	1	6	0	0	5	2.8 (4.2)	21.1%	47.4%	0.0%	0.0%	31.6%					
C 進路指導	10 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていると思いますか。	1年	0	3	0	0	0	4.0 (4.5)	6	9	0	1	3	3.74 ↓↓		4.09	
		2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.6)									
		3年	3	5	0	1	3	3.3 (4.4)	31.6%	47.4%	0.0%	5.3%	15.8%				
11 本校は、生徒の進路志望の実現のために面談など家庭との連携を図っていると思いますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.5)	10	4	0	2	3	3.84 ↓↓		4.11		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.8)										
	3年	5	2	0	2	3	3.3 (4.3)	52.6%	21.1%	0.0%	10.5%	15.8%					
12 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。	1年	0	3	0	0	0	4.0 (4.8)	6	10	0	1	2	3.89 ↓↓		4.26		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.7)										
	3年	3	6	0	1	2	3.6 (4.6)	31.6%	52.6%	0.0%	5.3%	10.5%					
D 学校行事等	13 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していると思いますか。	1年	0	3	0	0	0	4.0 (4.5)	4	7	4	1	3	▽ 3.42 ↓↓		3.91	
		2年	2	0	2	0	0	4.0 (3.6)									
		3年	2	4	2	1	3	3.1 (4.1)	21.1%	36.8%	21.1%	5.3%	15.8%				
14 学校祭、体育祭等の学校行事は充実していると思いますか。	1年	0	2	1	0	0	3.7 (4.5)	5	6	5	2	1	3.63 ↓↓		4.17		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.8)										
	3年	2	3	4	2	1	3.3 (4.4)	26.3%	31.6%	26.3%	10.5%	5.3%					
15 生徒会活動やホームルーム活動で生徒が主体になった活動が多いと思いますか。	1年	0	2	0	0	1	3.0 (4.5)	6	8	0	0	5	3.53 ↓↓		3.80		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.4)										
	3年	3	5	0	0	4	3.3 (3.9)	31.6%	42.1%	0.0%	0.0%	26.3%					
E 学校との連携	16 家庭と学校の連携は十分にはかられていると思いますか。	1年	1	2	0	0	0	4.3 (4.5)	7	8	1	2	1	3.95 ↓		4.00	
		2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.8)									
		3年	3	5	1	2	1	3.6 (4.1)	36.8%	42.1%	5.3%	10.5%	5.3%				
17 HPや「西高だより」によって本校の活動が地域によく伝わっていると思いますか。	1年	2	1	0	0	0	4.7 (4.5)	10	7	0	0	2	○ 4.21 ↓		4.31		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.9)										
	3年	5	5	0	0	2	3.9 (4.6)	52.6%	36.8%	0.0%	0.0%	10.5%					
18 PTA活動(PTA総会、学年PTA等)は適切に行われていると思いますか。	1年	0	3	0	0	0	4.0 (4.5)	6	10	0	0	3	3.84 ↓		4.00		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.6)										
	3年	3	6	0	0	3	3.5 (4.2)	31.6%	52.6%	0.0%	0.0%	15.8%					
F 生徒指導	19 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。	1年	2	0	0	0	1	3.7 (4.5)	11	5	0	0	3	4.11		4.14	
		2年	3	1	0	0	0	4.8 (4.3)									
		3年	6	4	0	0	2	4.0 (3.9)	57.9%	26.3%	0.0%	0.0%	15.8%				
20 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。	1年	1	1	0	0	1	3.3 (4.8)	10	4	0	1	4	3.79 ↓		3.94		
	2年	3	1	0	0	0	4.8 (3.6)										
	3年	6	2	0	1	3	3.6 (4.1)	52.6%	21.1%	0.0%	5.3%	21.1%					

今年度全体平均より「+0.5→  
◎」、「+0.3→○」、「-0.3→▽」、  
「-0.5→×」  
各項目の昨年(上段)、一昨年(下  
段)平均より「+0.25→↑↑」、  
「+0.05→↑」、「-0.05→↓」、「-  
0.25→↓↓」

※割合は有効回答者数合計に対するもの R7 R6 R5

全体平均	3.82	4.17	
------	------	------	--

## 令和7年度学校評価アンケート自由記述への回答

今年度の学校評価において、生徒および保護者の皆様から貴重な御意見を多数お寄せいただき、誠にありがとうございました。いただいた自由記述の内容につきましては、職員会議等で全教職員が共有し、関係する分掌等において検討を行いました。

次のとおり、主な御意見に対する本校としての考え方や対応の方向性をまとめましたので、御覧ください。

### <生徒アンケートより>

・体育祭とは別に、全校生徒が一緒に取り組む体育的な活動（授業等）を、月に1回程度実施することは可能でしょうか。

○教科「体育」は、技能の習得を主な目的としており、「各領域（種目）の基本的な動きや技能を、発達段階や学年に応じて計画的・段階的に学ぶ」授業です。そのため、学年ごとに扱う種目や学習の進度が異なっており、全校生徒が同一内容で一斉に授業を行うことは、教育課程上、非常に難しいと考えられます。また、「体育祭」は行事として、仲間と協力することや達成感を味わうことを目的としたものであり、教科としての「体育」とは、そのねらいや位置付けが異なるものです。

・授業において、YouTube等の動画コンテンツを学習目的で活用できるよう、利用ルールの見直しを検討してほしい。

○YouTubeについては、現在、授業においては一部活用しているものの、生徒が自由に利用することについては一定の制限を設けています。今後は、授業等において生徒がより主体的に活用できるかどうかについて、教育的効果や情報モラル・安全面を十分に踏まえながら、校内で協議を重ね、適切な運用の在り方を検討していきます。

・少人数校のため、文化祭や体育祭をより活気ある行事にする工夫として、近隣の小・中学校との連携を検討してほしい。

○文化祭や体育祭を共に準備し、盛り上げていくためには、相互理解と継続的な関係づくりが欠かせません。また、会場や主催の在り方など調整すべき点も多く、来年度すぐの実施は難しい状況です。

・スマートフォンの使用ルールを守ることを前提に、必ずしも回収する必要はないのではないかと。

○昨年度も同様のご指摘がありましたが、スマホの回収については、入学前のオリエンテーションで保護者および新入生に説明した上で、「携帯電話等の持込に関する届出書」を入学時に提出してもらい、保護者の同意のもとで実施しています。学習環境の統一と安全面への配慮から、引き続きご理解をお願いします。

### <保護者アンケートより>

・なし

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 儀式や学校行事の円滑な運営を図る。</li> <li>2 保護者・地域との連携を図り、学校の活性化に努める。</li> <li>3 本校の教育活動やPTA活動等について情報発信に努める。</li> </ul>
------	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・職員の減少に伴い、これまでの儀式やPTA行事の継続が難しい状況である。</li> <li>・保護者の学校への関心が高いとは言えない。</li> <li>・「西高だより」「PTA会報」「同窓会誌」等を発行し、情報発信を行っている。</li> </ul>
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状に即した効率的な運営を心がけるとともに、よりよい形で継続できるよう様々な角度から検討をする。</li> <li>・PTA活動や学校行事に保護者が参加しやすいよう工夫をする。</li> <li>・「西高だより」「PTA会報」「同窓会誌」等を継続し、本校の取組について家庭や地域に積極的に発信する。</li> </ul>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状をよく分析した上で儀式や行事の運営体制を明確にする。また現状を生かした内容を考える。</li> <li>・PTA活動については広く意見を聞き、様々なアイデアを取り入れる。</li> <li>・これまでの情報発信に加え、今年度は創立60周年記念事業についてメディア等を通じて広告する。</li> </ul>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立60周年記念式典の挙行にあたり、PTAや同窓会とも連携して準備を重ねた。</li> <li>・学校からの連絡をより迅速かつ確実に保護者へ届けるため、今年度より連絡アプリ「すぐーる」の運用を本格化させた。またあわせてPTA活動のあり方を見直し、会則・細則の改定を行った。具体的には各部や常任委員会を廃止し、組織のスリム化を図った。</li> <li>・創立60周年記念事業について、新聞広告やテレビCMを活用した広報活動を展開し、地域や家庭のみならず県内全域へ本校の取り組みを発信した。</li> </ul>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約100名の来賓をお迎えし、式典を挙行することができた。生徒一人ひとりが主体的に役割を果たし、式典の成功に大きく貢献した。</li> <li>・PTA会則や細則等を改定し、保護者の負担軽減になった。</li> <li>・「西高だより」「PTA会報」「同窓会誌」に加え、記念事業を通じた広報を行うことで、本校の教育活動に対する理解と認知度を高めた。</li> </ul>
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	現状に即した柔軟な取り組みを推進することができた。今後の式典運営においては、さらなる見直しや工夫を図る必要がある。
------------------	---	---

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	地域の学校としての存続に向け、入学者確保のためのさらなる具体策と尽力を期待したい。重点目標にある「地域との連携」をより具体化し、学校祭や諸行事への住民の参画・協力を積極的に促すことで、学校の活性化に繋げてほしい。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<p>既存事業を単なる行事報告に留めず、生徒の成長がわかるように広報していくことの重要性を感じている。また、同窓会や地域住民が参画できるよう分掌間で連携し合い、地域全体で生徒を育てている姿を発信することで、中学生の入学意欲へと繋げたい。</p>
--	--

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人ひとりの学習意欲を向上させるため、学習環境・学習指導の質的向上を図る。</li> <li>2 基礎的・基本的学力の定着、学習に向かう姿勢の確立に向けた取組を推進する。</li> <li>3 校務支援システムの円滑な運用に努める。</li> </ul>
------	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインに基づいた教室の利用やICT機器の利用により、集中して授業に取り組む生徒が増えてきている。</li> <li>・朝学習は多くの生徒が取り組んでいるが、毎日の家庭学習が定着している生徒は非常に少ない。</li> <li>・今年度出欠や成績等の入力方法を変更したため、処理方法の周知が必要である。</li> </ul>
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室環境や授業のユニバーサルデザイン化、ICT機器の効果的な活用を促す。</li> <li>・朝学習への着実な取り組みと家庭学習の定着を学校全体で推進する。</li> <li>・研修・情報・図書部と連携し、職員全員が適切に利用できるよう情報共有を図る。</li> </ul>
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互授業参観や効果的な取組について職員に周知する。</li> <li>・学年部・教科と連携して授業と家庭学習が接続するように課題を工夫する。</li> <li>・適宜研修・情報・図書部と連携し職員研修やマニュアルの共有を行う。</li> </ul>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修・情報・図書部と連携して、授業の進め方やICTの効果的な活用などについて理解を深めるため相互授業参観を行った。</li> <li>・学年部や教科と連携し、朝学習では生徒が見通しをもって課題に取り組めるようにした。また、考査範囲を早期に周知することで家庭学習へとつながるよう工夫した。</li> <li>・情報・図書部と連携し、校務支援システムを適切に利用できるよう情報の周知に努めた。</li> </ul>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教室や授業にユニバーサルデザインの視点がいかされ、学習活動に集中できる環境が保たれ、生徒の学習意欲の向上につながっている。</li> <li>・朝学習は着実に定着しつつある。一方、家庭学習には学年間で差が見られるため、今後は進路指導部と協力しながらより効果的な取り組みを進めていきたい。</li> <li>・出欠の日々入力の方法も共通理解が図られ、校務支援システムを円滑に運用することができた。</li> </ul>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	<p style="text-align: center;">B</p> <p>学校全体での取組により生徒の学習意欲も向上している。今後もより良くなるよう取り組みを改善していきたい。家庭学習は定着するように学校全体で共通理解を図るとともに、取り組むための仕組み作りなどを工夫していきたい。</p>
------------------	--

評価基準      A:具体的な活動がなされ目標を達成できた      B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p style="text-align: center;">A</p> <p>ユニバーサルデザインに基づいた教室環境の整備や授業改善により、生徒が学習に向かう姿勢が向上したことは大きな成果である。こうしたきめ細かな環境づくりが、生徒の落ち着いた学習態度に繋がっていると評価できる。</p>
------------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<p>生徒の多様化が進む中で、一人ひとりの学びを支えるために、教室環境や授業のユニバーサルデザイン化を今後も継続して推進していきたい。また、少人数であっても深い学びにつながるICTの活用方法について、学校全体で共有しながら授業改善を図りたい。さらに、学年部・進路指導部と連携し、家庭学習の定着に向けて学校全体で統一した方針と仕組みを構築していきたい。</p>
--	---

評価領域	生徒指導・保健部
------	----------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 社会のルールやマナーを守る素直でさわやかな態度を育てる。</li> <li>2 思いやりの心、互いの立場や考え方を尊重し合い社会の一員として共に生きていくことができる開かれた心を育成する。</li> <li>3 学校環境衛生に努め、生徒の心身の健康増進や感染症対策の指導に努める。</li> </ul>
------	--

現 状	<p>帰属意識や自尊感情の低い生徒もおり、継続して自己存在感を高める工夫が必要である。学校環境においては、清掃の取り組みや教室環境は概ね良好であるが、今後も維持していく必要がある。また、感染症予防について意識が低い生徒がいる。</p>
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールやマナーを守る、挨拶、時間規律・整容など「当たり前」のことをきちんとできる生徒、「主体的」に行動できる生徒を育成する。</li> <li>・いじめの予防、根絶に向けて行動できる生徒を育成する。</li> <li>・環境美化に取り組む習慣をつけさせる。また、健康診断の事前・事後指導を適切に行い、生徒自らが進んで健康に留意する場面を設定する。</li> </ul>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒委員会での活動及び、生徒会、PTAと連携して登下校のあいさつ運動や及びマナーアップ運動を充実させる。</li> <li>・教職員の共通理解のもと、いじめ防止や、いじめ早期発見に努め、その発生に対し組織的に対応する。</li> <li>・保健だよりやポスター等の作成、全体への健康保健指導を通して、衛生面や心身の健康に関する呼びかけを行う。</li> </ul>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員による登校時の挨拶運動（駅・校門指導）を実施した。また、全校集会で挨拶励行・整容改善・いじめ防止等と呼びかけた。</li> <li>・マンスリーチェック及びいじめアンケート結果を活用して面談を実施し、各自の悩み事やいじめの早期発見に努めた。</li> <li>・大清掃を2部制にするなど、少人数でも効率よく広範囲の清掃活動を実施できた。</li> <li>・西仙北小中高連携保健指導に取り組んで3年目となる。今年度は生活アンケートの実施・環境委員会からメディア使用について保健指導の実施・冬休み中にメディアコントロールに取り組んだ。</li> </ul>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶運動、整容指導等を職員一丸となった取組で、挨拶の習慣も改善されている。また、整容面も含めルールやマナーを主体的に守ろうとする姿勢が見られる。</li> <li>・清掃員の協力及び教職員の清掃指導のおかげで、校内の清潔が保たれている。</li> <li>・地域を巻き込み、小中と連携した保健指導に取り組んでいる。</li> </ul>
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">B</td> <td>自己肯定感を高める取組を心がけ、事故等もなかった。今後もマナーの向上やいじめのない学校生活を遅れるよう指導の継続を図りたい。</td> </tr> </table>	B	自己肯定感を高める取組を心がけ、事故等もなかった。今後もマナーの向上やいじめのない学校生活を遅れるよう指導の継続を図りたい。
B	自己肯定感を高める取組を心がけ、事故等もなかった。今後もマナーの向上やいじめのない学校生活を遅れるよう指導の継続を図りたい。		

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">A</td> <td>生徒一人ひとりの状況に応じた個別の指導が丁寧になされており、それぞれの頑張りを引き出そうとする姿勢を評価したい。今後も生徒の多様なニーズに向き合い、個性を伸ばすきめ細やかな教育活動が継続されることを期待する。</td> </tr> </table>	A	生徒一人ひとりの状況に応じた個別の指導が丁寧になされており、それぞれの頑張りを引き出そうとする姿勢を評価したい。今後も生徒の多様なニーズに向き合い、個性を伸ばすきめ細やかな教育活動が継続されることを期待する。
A	生徒一人ひとりの状況に応じた個別の指導が丁寧になされており、それぞれの頑張りを引き出そうとする姿勢を評価したい。今後も生徒の多様なニーズに向き合い、個性を伸ばすきめ細やかな教育活動が継続されることを期待する。		

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西高カジュアルデー」は個性や多様性を尊重する態度を更に引き出すために、次年度は現行4回実施を倍の8回実施とする。(3学期を除く毎月第2金曜日)</li> <li>・生徒の情報共有を図り、個に応じた丁寧な指導を継続していきたい。</li> <li>・生徒減少の中、環境美化を継続していくには困難を極めるが、学校全体が協力体制を構築し、環境衛生に努めていきたい。</li> </ul>
--	---

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	「向学・友愛・強健」の精神を忘れず、継続して努力を続けることで、社会に対応できる人材を育成する。
------	--

現 状	進路目標を明確にもって意欲的に取り組む生徒もいるが、進路目標を模索している生徒も見受けられる。希望進路を実現させるためにも、日々の授業や学校生活、学校行事を通して、職業観の形成を図ることが重要である。
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解を基に、早期に進路目標を設定させ、学力向上を図る。</li> <li>日々の授業や学校生活を通して、職業観の形成を図り、一人ひとりに応じた進路指導を行う。</li> <li>ICT機器を活用し、多様な進路形態への対応を行う。</li> </ul>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査を年2回実施することで、生徒の進路意識を把握し、進路指導に役立てる。</li> <li>就職や進学のための全体指導や個別指導、個別面談を適宜行う。</li> <li>企業・学校理解のための情報提供と指導の充実やICTを活用した積極的な進路情報収集を促す。</li> </ul>
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	進路カルテ(進路の手引き電子版)を配信し各学年へ活用を促した。また、マナビジョン(Benesse)で模試の見直しや一般常識問題への取組、HANDY進路指導室で求人票公開、こっちゃけの活用などICTを用いた情報収集を促した。生徒の進路希望調査、進路資料室の生徒活用、各校OCの壁掲示、進路情報の学年部への広報、生徒への個別指導、大曲ロータリークラブによる就職面接会も実施した。また、各学年において県や各業者が計画した各種セミナーや就職ガイダンス、インターンシップ等を実施し、報告会も実施しキャリア教育の充実を図った。発達障害のある生徒の就職について情報共有を行った。
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	今年度からパソコンを用いた履歴書作成も可能となったが、スムーズに対応することができた。また、進路希望調査や個別面談により、適宜、生徒の進路希望に応じた情報提供をすることができた。
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	全教員の協力により、多様な進路希望を持つ3年生全員の進路先を決定することができた。来年度以降も全教員協力体制で進路指導を進めていきたい。
------------------	---	--

評価基準  
 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	卒業生全員の進路決定という素晴らしい成果を収められたことは、生徒の努力と学校の指導の賜物であり喜ばしい。こうした実績をHP等で積極的に発信することは、新入生の夢や希望にもつながるため、今後も継続した情報提供を期待したい。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	今年度新たに実施したICT(進路カルテのクラスルームでの配信、マナビジョンにて模試の見直しや一般常識問題への取組、HANDY進路指導室にて求人票の公開、こっちゃけの活用等)を来年度以降も積極的に活用していきたい。また、生徒の進路希望調査、進路資料室の生徒活用、学年部への情報提供、大曲ロータリークラブによる就職面接会なども継続し、生徒の進路希望に応じた支援体制を整えていきたい。来年度以降も全教員協力体制で進路指導を進めていきたい。
--	--

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
------	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数の減少により、従来行ってきた内容の行事が実施しづらくなっている。全校生徒一体となって行事の準備・運営・後片付けを行っている。</li> <li>全校で地域ボランティア活動（福祉施設でのクリスマスツリーの飾り付け、清掃活動、高齢者宅の除雪）を実施している。</li> </ul>
-----	--

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特別活動を通して、生徒が協働できる能力を身につけさせる。</li> <li>2 生徒が学校や地域、自他の課題を見だし、解決できるように取り組む事ができるようにする。</li> <li>3 特別活動を通して、生徒が主体的に学校生活を送ることができるような態度を育成する。</li> </ol>
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全校生徒が協働し、活動する機会を設けるとともに、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する。</li> <li>2 地域に密着した活動を取り入れ、地域に貢献する意識の高揚と態度を育成する。</li> <li>3 クラス内での役割や生徒会の組織を通して社会生活における役割の自覚を促す。</li> </ol>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事ごとに生徒委員会を開催することで全校生徒から意見を集約し、生徒主体となった学校行事の運営を図った。</li> <li>・グループフォームによるアンケートを実施し、次年度の行事实施に向けた課題を洗い出し、学校行事の運営の在り方を見直した。</li> <li>・体育祭に関しては、初心者でも高揚感を味わえるゲーム性の高い種目を取り入れ、全員参加の割合を増やした。</li> <li>・学校祭に関しては、少人数ながら複数の役割を果たすことで成功できた。</li> <li>・地域イベントに全校で参加し、十分に地域貢献できた。</li> </ul>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭の新規個人種目は好評を得たと思われる。来年度も継続して実施したい。種目によっては地域住民及び近隣小・中学校との連携も考えられる。</li> <li>・学校祭は、全校生徒数から考えて十分な実施状況であった。</li> <li>・地域イベントに積極的に参加することで、地域社会の担い手としての帰属意識を高めた。</li> </ul>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	生徒各個人が十二分に活躍し、充実した特別活動が実施できたと思われる。
------------------	---	------------------------------------

評価基準  
 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた    B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	特別活動において生徒一人ひとりが輝きを持って取り組んでおり、社会の一員としてより良い人間関係を築こうとする姿勢が見受けられる。地域社会への貢献を通じて、自己有用感や社会性を育む教育活動を継続していただきたい。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	生徒総数の減少に伴う行事の精選を進めながら、他者との関わりをより充実させるために、地域貢献を活動の軸として捉え、生徒個人の社会性の育成を目指す。校内行事のオープン化と地域交流を推進し、地域の中でより有用感を得られる活動を行う。能動的な活動により、主体的に考え行動する姿勢を育成する。
--	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 「他と協働して課題解決ができる生徒」の育成を目指し、ICT等を活用した授業改善に役立つ情報提供や職員研修を実施する。</li> <li>2 生徒に情報モラルに関する知識を身に付けさせ、情報モラルを守ろうとする態度を育成する</li> <li>3 図書の充実と、朝活動や長期休業中で読書に親しむ姿勢を育むなど、図書館の活用を図る。</li> </ul>
------	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育センターを始めとするいろいろな研修の情報を随時提供している。</li> <li>・図書館の利用状況には偏りが見られる。</li> </ul>
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌や ICT 活用推進リーダーと連携し、校内研修の計画、ICT 機器の活用を促進する。</li> <li>・生徒の希望する図書を購入し、利用しやすい環境を整え、1人3冊は借りて読むように啓蒙活動をする。</li> </ul>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修会や公開授業で ICT を活用した授業展開を示し、他者の利用状況を知る機会を設けて、授業改善を図る。</li> <li>・生徒指導部や学年と連携し、生徒が情報モラルについて考える機会を設ける。</li> <li>・定期考査終了後に「読書週間」を設けることと、長期休業中の読書を促す啓蒙活動に努める。</li> </ul>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業や授業アンケートの評価方法を評価しやすい形にし、よい取組を取り入れやすくした。職員研修は、AED、防災に関する研修を行った。ICTを活用した取組を紹介した。</li> <li>・情報モラルについては、生徒指導や教科と連携しながら考える機会を設けた。また、指導する側の意識を高め指導に生かすために、著作権に関するクイズを公開した。</li> <li>・読書週間、県立図書館の図書貸し出し、朝日けんさくくんの契約など、図書に触れる機会を増やした。生徒に対して希望図書アンケートを実施した。</li> </ul>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用するための研修に積極的に参加していた。</li> <li>・情報モラルについては、生徒指導や教科と連携しながら考える機会を設けることができた。</li> <li>・図書の貸し出しは、平均1人2.48冊であった。</li> </ul>
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	公開授業や授業アンケートの評価により、他の教員のよい部分やICTの活用など授業改善について考えることができたと考える。
------------------	---	---

評価基準  
 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた    B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	ICT活用が着実に進んでいる様子が伺える。今後はその具体的な取組について、保護者に対してもより積極的に周知を図ることで、学校の先進的な教育活動への理解がさらに深まることを期待したい。
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<p>保護者との連絡をICTツールを活用した手段に切り替える。学年通信や行事予定、面談の日程調整、学習の成果などを今まで以上にデジタルを活用して知らせることで、教育現場のデジタル活用度を実感して意識の差を埋められるようにしたい。生徒はBYODが進み、家庭でタブレットを活用する時間が増えると思われる。日常的に家庭学習する機会を設けることで保護者も実感できると考える。</p>
--	---

評価領域	1 年 部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康に留意し、充実した学校生活を送れるよう支援する。</li> <li>・主体的に学ぶ姿勢を尊重し、進路実現に向けて基礎学力を定着させる。</li> <li>・集団に貢献できる場面を多く設定し、自己有用感を高めさせる。</li> </ul>
------	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数によるきめ細かな対応を必要とする集団である。多様な学習背景や個別の支援ニーズを持つ生徒が在籍しており、基礎学力の定着度には個人差が見られる。全体として穏やかで慎重な性格の生徒が多く、個々のペースに合わせた環境づくりが重要となっている。</li> </ul>
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理できる力を養う。元気な返事や挨拶を励行し、生徒が周囲に対して自分の考えを伝えやすい場をつくる。整理整頓や整容など基本的な生活習慣を身につけさせる。</li> <li>・ベル着を徹底し、毎日の授業を大切に、課題等に丁寧に取り組ませる。学習活動を最後までやり切ることができるよう支援する。</li> <li>・学校行事や部活動に意欲的に参加させる。また、周囲と関わり合い協力して掃除や学級活動に取り組むよう働きかける。</li> </ul>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の朝活動、清掃など様々な機会に、学年部職員全員が生徒と積極的に関わる。面談週間では学年部職員全員が生徒と面談する。</li> <li>・学年外の教科担任や部活動顧問の先生方と連絡を密にし、生徒の状況を把握したり指導の工夫について情報交換をしたりする。</li> <li>・教室掲示を工夫し GoogleClassroom を活用して連絡を徹底する。</li> <li>・「自学ノート」「進路ノート」を作成させ、提出させる。その他、生徒が自分の成長を実感できるよう記録や成果物を残す。</li> <li>・全員、部活動に参加するよう勧める。</li> </ul>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校特別支援チームに依頼し、授業参観と助言をしてもらった。</li> <li>・保護者と連絡を密にして、必要に応じて医療や福祉について情報交換した。</li> <li>・2度の面談週間では学年部職員全員が生徒全員と面談を行った。</li> <li>・「自学ノート」「進路ノート」を記載させ、定期的に提出させた。</li> <li>・挨拶、整理、提出物など、基本的な生活習慣について丁寧に粘り強く指導した。</li> <li>・SCによるコミュニケーションワークショップを3回実施した。</li> <li>・ボランティア活動2回、秋田市へのフィールドワークを実施した。</li> <li>・進路指導の一環として技術専門校の出前講座を利用した。</li> </ul>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の状況に応じた伴走支援に努めた。着実に学習成果を上げ、生活習慣や自己有用感の向上が見られる生徒がいる一方で、環境の変化や集団活動に課題を感じるケースも散見された。関係機関や保護者と連携し、個別に最適な環境調整や相談体制の継続を図っている。</li> </ul>
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	<p><b>B</b></p> <p>継続して登校できている生徒については、概ね目標を達成できた。一方で、個々の状況変化により支援が届きにくい場面もあり、多様なニーズへの対応が今後の課題となった。生徒一人ひとりのレジリエンスを高めるため、多角的なアプローチを次年度も継続検討したい。</p>
------------------	---

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p><b>B</b></p> <p>多様な背景を持つ生徒一人ひとりに対し、教職員が真摯に向き合っている。不登校生徒の状況については懸念されるものの、引き続き個々のニーズに応じたきめ細やかなサポート体制の構築と、温かい教育活動の推進を期待する。</p>
------------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<p>次年度も、引き続き、SCや高等学校特別支援チームとの連携を図りながら、保護者と目線を合わせ、生徒一人ひとりに丁寧に対応していく。具体的には、インターンシップと修学旅行を軸として、心身の健康維持、基本的な生活習慣の確立、学力向上、コミュニケーション力の向上などを図りながら、充実した楽しい学校生活を送れるよう支援していく。</p>
--	---

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	1 規律ある生活習慣を確立する。 2 進路目標を明確化し、その実現に向けた学習態度を確立する。 3 学校の諸活動に積極的に取り組み、他者と協働する姿勢を養う。	
現 状	・前向きに学習に参加しているが、進路希望達成のためには計画的・継続的に学習に取り組み、一層の学力の向上が求められる。結束力の高さを活かし、何事にも協働しながら問題解決に向かう姿勢が見られる姿勢を伸ばしたい。	
具体的な目標	・自分のスケジュールを理解し、見通しをもった行動をとる。自己管理に努め、皆勤を目指す。また、提出物の期限を厳守する。 ・就職先や進学先について、進路達成の手立てを詳細に調べ、対処する。 ・ベル着を心掛け、授業を大切にする。朝学習・模擬試験・補習等に粘り強く取り組み、学力の定着を図る。	
目標達成のための方策	・生徒自身の自主性を重んじ、各課題を一任することで、やり抜く力や、責任感および柔軟な思考の育成を行う。 ・校外活動を重視し、社会性の育成を行う。 ・面談を通じて、進路実現に向けて必要な知識・経験を紹介し、人間力の底上げを行う。	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	・考査に向けてスプレッドシートによる学習計画・学習時間記録を作成することで、教科バランスや提出物の期限厳守を意識させた学習に取り組む仕掛けを施した。 ・朝学習では、通年で社会性や人間性育成のため、話し方講座を実施した。また、補習に関しても、教育課程の内容だけでなく、面接や作文などを実施した。 ・時事を学び社会性を身につけるために、外部講師を活用し、学校行事の事前事後指導を充実させた。	
達成状況 (1～2月記載)	・提出物やスケジュール管理など、自主的に行動できるようになった。 ・進路に関して、漠然とした憧憬が強い進路希望から、職種や学科など具体的な希望に変化している。 ・T P Oに応じた、話し方や他者との接し方が身についてきた。	
自己評価 (1～2月記載)	B	・生徒各個人が十二分に活躍し、変容が見られた。 ・将来への意識付けがより明確になり、必要な教養への学習意欲が高まった。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた    B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	A	少人数教育の強みを活かした手厚い指導がなされている。今後も生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、きめ細やかな支援とさらなる努力を期待したい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	進路実現に向けた素養の育成を目指し、学力だけでなく、社会儀礼や常識などをしっかり身につけるように指導する。そのために他者との関わりを重視し、地域社会や校外の方々との交流の機会を充実させ、常識等を育成する。基本的な学力の定着は当然であるが、時勢を敏感に捉える姿勢や態度の育成も行う。	

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 進路目標の達成に向け、向上心をもって努力を継続する。</li> <li>2 最上級生としての自覚をもち、思いやりと責任ある行動をとる。</li> <li>3 よりよい学校作り・社会形成に積極的に貢献し、他者と協働する姿勢を養う。</li> </ul>
------	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は学校設定教科「地域探究」の課題研究の集大成となる発表があり、進路意識も高まっているので、物事の達成に向けて粘り強く努力をすることで結果につなげたい。また創立60周年を迎える3年生として各場面で学校全体をリードする存在となれるよう、協調性をはじめとする社会的スキルの向上を図りたい。</li> </ul>
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の授業を大切にし、基礎基本の徹底を図る。物事を多方面から考えるなど、適切に判断できる礎を築く。ICTを活用した情報収集・問題解決能力を養う。相手の意見に素直に耳を傾けると同時に、自分の意見を積極的に述べる。</li> <li>・自ら清潔な整容や正しい礼儀を心がける。状況に応じた挨拶・言葉遣いを習得する。学校行事等の場面でリーダーシップを発揮する。自分の役割を最後まで粘り強く全うする。</li> <li>・学校行事や地域の活動に意欲的に参加する。物事に対して前向きにかつ周囲と協力して取り組み、多くの経験を自らの成長に生かす。</li> </ul>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域探究のまとめとして、ICTを効果的に用いた発表ができるように、周囲と協力して研究・工夫を重ねる。</li> <li>・進路達成に向け、補習や朝学習に皆で真剣に取り組み、互いの努力を励まし合う雰囲気作りに努める。</li> <li>・周囲から信頼される存在となるために、各場面で率先して自分の役割に取り組むとともに、常に他者を尊重する姿勢を大事にさせる。</li> </ul>
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に、外部の先生方や地域の方々を招いて課題研究発表会を行った。</li> <li>・担任と学年部全員で学級経営に関わり、生徒の進路活動状況の把握・サポートをするとともに、目指すべき事を具体的に伝えた。</li> <li>・最上級生の自覚や思いやりについて説く機会を多く設定した。</li> </ul>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒対象アンケートでは地域探究で「課題解決に必要なICT活用能力、情報収集能力、協調性などが高まった」と自己の成長を実感している。</li> <li>・朝学習・補習ともに取り組む姿勢が向上した。生徒が協力して進路対策を行う姿が見られた。卒業後の進路が全員決定した。</li> <li>・60周年記念式典等の行事で、中心となり準備・運営に取り組んだ。後輩に丁寧にノウハウを伝える場面があった。</li> </ul>
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生として学校行事やボランティア活動等の中心となり、学校や地域に貢献するべく取り組んでいる。</li> <li>・全員が進路を決め、社会で必要な協調性や責任感を身に付けようと努力している。</li> </ul> </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生として学校行事やボランティア活動等の中心となり、学校や地域に貢献するべく取り組んでいる。</li> <li>・全員が進路を決め、社会で必要な協調性や責任感を身に付けようと努力している。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生として学校行事やボランティア活動等の中心となり、学校や地域に貢献するべく取り組んでいる。</li> <li>・全員が進路を決め、社会で必要な協調性や責任感を身に付けようと努力している。</li> </ul>		

評価基準  
A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">A</td> <td> <p>地域と連携した探究学習などの独自性のある指導は、生徒の学びを深める上で高く評価できる。今年度、卒業予定者全員の進路が決定したことは喜ばしく、生徒一人ひとりが希望する進路の実現に向けて邁進できるよう、引き続き手厚い支援を期待したい。</p> </td> </tr> </table>	A	<p>地域と連携した探究学習などの独自性のある指導は、生徒の学びを深める上で高く評価できる。今年度、卒業予定者全員の進路が決定したことは喜ばしく、生徒一人ひとりが希望する進路の実現に向けて邁進できるよう、引き続き手厚い支援を期待したい。</p>
A	<p>地域と連携した探究学習などの独自性のある指導は、生徒の学びを深める上で高く評価できる。今年度、卒業予定者全員の進路が決定したことは喜ばしく、生徒一人ひとりが希望する進路の実現に向けて邁進できるよう、引き続き手厚い支援を期待したい。</p>		

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<p>地域探究については、生徒の多様な能力を伸ばさせるべく、これまで以上に地域の方々と連携しつつ計画的な学びを進めていきたい。また進路達成のためには学年部問わず職員間で連携し、適切な進路選択への働きかけや朝学習・補習等学力伸長に向けた活動を行う必要がある。これにより生徒の学習習慣を確立させるとともに、自主的・積極的に進路達成に向けて努力を積み重ねる姿勢を引き出したい。</p>
--	---

評価領域	国語科
------	-----

重点目標	授業の展開や形態の工夫を図るとともに、適切な教材を選択し、生徒の主体的な学びを促すことにより、学力の向上と知識の定着を目指す。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階までの知識が不足しており、高校での学習内容を扱うことが厳しい生徒もいるが、学習活動に対する意欲はある。</li> <li>・読書経験が浅く、主体的に文章を読もうとする意欲の低い生徒が多いが、文章の内容に対する興味・関心はある。</li> <li>・語彙力が足りず、表現力が拙いことが多い。</li> <li>・漢字の読み書きを苦手とする生徒がいる。</li> </ul>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を引く教材研究・実践を行う。</li> <li>・基礎学力の向上と知識の定着を図る。</li> <li>・社会で求められる語彙力・読解力・表現力を育む。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を目指した授業を展開し、考えさせたり、問題を解くための時間を十分に確保する。</li> <li>・解法や理解の幫助を十分に行う。</li> <li>・誤答や不理解などを受容しながら、積極的な変容を促す。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主教材として、ベストセラー小説や共通テスト出題作品を取り上げた。また、2年の授業で、地歴科の授業とタイアップする形で評論を取り上げ、複数資料の読解につなげることができた。</li> <li>・考査ごとに問題集やノートのチェックを行い、学習状況を把握した。</li> <li>・創作活動として川柳とエッセイを書かせた。</li> <li>・ICTを用いて、課題提出や相互評価に取り組みさせることができた。</li> <li>・ベネッセのデジタルドリル、朝日新聞のデータベースサービスを活用することができた。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は興味・関心をもって授業に臨むことができたようだ。生徒の自己評価も高く、充実感や自信を持たせることができたのではないかと感じる。(授業アンケートより) また、試行錯誤の1年だったが、生徒の協力を得ながら、教科の目標を達成することができた。教材の開発や、他教科と連携した授業など、新しいことに取り組めたことはよかった。</li> </ul>
7年度の課題及び8年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用について、7年度は設備の使い方が未熟でうまく活用できなかったため、次年度はもっと積極的に活用したい。具体的には、動画などの視聴の他、課題の回収・点検、読解を深めるための調べ学習などに活用する。</li> <li>・7年度は、言語活動(「話す」「聞く」)への生徒の意欲をうまく引き出せなかったため、次年度も引き続き、生徒を動かす工夫を重ねていきたい。</li> <li>・生徒が関心を持てるよう、地域に関連する言葉や文章を教材に取り入れる。</li> </ul>

評価領域	地歴・公民科
------	--------

重点目標	社会の変化に主体的に対応できる能力の育成と、現代社会に生きる公民として必要な基礎学力の定着をはかる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階での基本的な知識が定着していない生徒が多い。</li> <li>・学習意欲の個人差が大きく、地歴・公民科の学習に苦手意識を持つ生徒も多い。</li> <li>・社会的事象に対して主体的に考察しようとする姿勢が弱い。</li> </ul>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像・映像・資料をもとに自らの考えをグループワーク等によりまとめさせ発表させる場面を設定する。</li> <li>・適切な振り返りを実施することで、知識の定着を図る。</li> <li>・社会で生活していく上で必要な知識を習得させる。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教材や画像・映像・実物教材など、生徒の興味関心や学習意欲を引き出す教材を活用する。</li> <li>・グループやペアで協力しながら課題を探究してまとめ、発表させる場面を設定する。</li> <li>・一問一答や生徒自身の文章記述による振り返りを実施する。</li> <li>・授業内で主権者教育及び消費者教育の内容を扱う。</li> <li>・積極的に時事問題を取り扱い、社会事象に関心を向けさせる</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教材を用いた学習、一問一答や文章記述の振り返りを実施した。</li> <li>・基礎学力の定着を図るために、毎時間授業に関連する共通テストや模試問題の演習を実施した（3年地理探究）。</li> <li>・平和学習について、公民科だけでなく国語科や総合探究などと連携しながら教科横断的に実施した（2年生）。</li> <li>・自ら課題を探究してレポートにまとめたり、発表する活動を行った。</li> <li>・労働問題や消費者問題など、卒業後に関わる事項を公民で扱った。</li> <li>・新聞記事などで時事問題を扱い、現代社会に関心を向けさせた。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教材等を活用して生徒の関心を高めることができ、振り返りを通じて、生徒に授業時間内での成果を確認させることができた。</li> <li>・課題探究活動で主体的な学習を促すことができた。しかし効果的な活動場面の設定や、教材精選ができていない場面があった。</li> <li>・始めは主権者教育、消費者教育、時事問題への関心が薄かったが、授業を通して自分事として考えるようになり、社会的事象を学ぶ姿勢を高めることができた。</li> </ul>
7年度の課題及び8年度の具体的対策	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な課題探究活動の場面設定ができなかったり、教材精選が徹底できず、授業計画が遅れる場面があった。</li> <li>・主体的に学ぶ態度＝目的を理解し、見通しをもち学習し、振り返りで自らの学びを調整する態度を、育成する機会の少なさ。</li> </ul> <p>[具体的対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題探究型学習を実施する場面を精選するとともに、知識理解の方法を効率的なものにする必要がある。他教科や他校の例なども参考にしつつ、積極的に授業に取り入れることで学習効果を高めたい。</li> <li>・生徒が授業冒頭で「今日のゴール」を設定し、課題の進め方を選択し、最後に「次はこうしたい」と振り返る場面がある授業を、計画的に実施していきたい。</li> </ul>

評価領域	数学科
------	-----

重点目標	生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力の定着と進学希望者の学力向上を図る。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年ともに上位層と下位層の差が激しい。</li> <li>・基礎学力の定着がなされておらず、四則演算がおぼつかない。</li> <li>・生徒によっては、高い進路実現に向け、大学受験程度の内容を必要としている。</li> <li>・意欲は充実しているが、長時間の挑戦が不得意である。</li> </ul>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に応じて学習内容を精選する。基本的内容を繰り返し学ばせ、基礎学力を育み、達成感を得ることができる授業を展開する。</li> <li>・多様な進路希望の実現に向けて指導の機会を充実させる。学び直しや補習等を通して基本的・発展的内容の指導を行う。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を目指した授業を展開し、考えさせたり、問題を解くための時間を十分に確保する。</li> <li>・解法や理解の幫助を十分に行う。</li> <li>・誤答や不理解などを受容しながら、積極的な変容を促す。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間ごとの達成目標を設定し、確認テストを実施し基礎基本の定着を図った。また、スパイラルな手法で繰り返し演習を行った。</li> <li>・複数の解法を提示し、個人にあった理解や実力向上を促した。</li> <li>・エルモによる視覚的な授業を実践し、直感を大切にしながら論理的思考を指導した。</li> <li>・計算ソフトグレース等を利用し、タブレットなどで生徒自身が操作することによって図形やグラフの変化を実感させた。</li> <li>・A Lによる言語化で、直感的な理解を論理的思考にする時間を確保した。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A Lによる言語化は、直感的理解を論理的理解にできるもので効果的であった。教え合いの場面を充実し、より一層活用したい。</li> <li>・プリント学習による確認テストは効果があった。また、進度は遅れるものの、定着をしっかりと図るためには効果的であった。</li> <li>・進路状況や希望によって、授業では取り扱わない領域を限定的ではあるが、補習等で補った。</li> </ul>
7年度の課題 及び8年度の 具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度進行でも学び直しの機会を設定し、数学の基礎・基本の反復学習をすることで、誤答を減らし、高度な数学の学習に対する忌避を薄め、習得への足がかりとする。</li> <li>・多様な進路設定への対応を従来通り行い、上級学校への学力の担保を行う。</li> <li>・エルモ等を有効利用し、視覚や直感を刺激しながら、理論的な数学の体系を意識させる。</li> </ul>

評価領域	理 科
------	-----

重点目標	<p>1 科学や科学技術に興味・関心をもつ生徒の育成に努める。</p> <p>2 基礎基本の定着に努め、基礎学力の向上を図るとともに、応用することができる学力を養う。</p>
現 状	<p>身近な自然現象に興味を持つなど、もともとは好奇心旺盛だった様子がうかがえる生徒もいるが知識の定着までには繋がらず、中学校卒業までに身につけるべき基礎学力が不足している生徒が多い。分かる、できるという自信を持たせられるような指導をする必要がある。</p>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動等を通して自然科学への興味・関心を高め、学習活動に意欲的に取り組ませる。</li> <li>・授業への取り組みを大切に、復習を継続的に行うことで基礎基本の定着を図る。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な科学事象を取り上げながら生徒に興味をもたせ、レポート作成や他者との話し合いの中で、それぞれの考えを深められるよう授業を展開する。単元ごと等で振り返りの時間を設定し、学習内容を確認することで定着を図る。</li> <li>・考查問題や評価方法を工夫し、日常の学習活動や小テストの成績、レポート課題等の提出状況を成績に反映させる。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年ごとに教科書の内容と、社会問題になっている事象を結びつけて学習することで、一般常識としての知識を身に付けさせることを意識した。学習した内容をレポートにまとめたり、発表させたりして、学習内容を定着させた。</li> <li>・考查問題には主体的に自主学習をすれば得点できる問題を入れるようにした。小テストをこまめに行った。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察を交えながら、生徒とのコミュニケーションを取りながら授業を行うことができた。授業アンケートも概ねよい評価であったし、実際の考查でもしっかりと勉強して高得点を取る生徒が多かった。授業→小テスト→ワークのプリント→テスト勉強という流れを変えずに、やればできるという意識付けができた。</li> <li>・主体性をはかる問題は、取り組んだ生徒とそうでない生徒の差が出るのでこれからも取り入れていきたい。</li> </ul>
7年度の課題及び8年度の具体的な対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生が少人数のため活発な話し合いがなかなか出来ない状況にあるのが課題である。理解に時間のかかる生徒もいる中で、同じ内容を同じスピードで行わせるのも難しいのが課題である。</li> <li>・8年度は、どのクラスも少ない人数での授業になるので、一人ひとりのペースに合わせ、科学的に生きていく上での必要事項を身に付けられるような授業を展開していきたい。</li> </ul>

評価領域	保健体育科
------	-------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動の特性に応じた技能や健康の保持増進に関する知識を身に付けさせる。</li> <li>2 運動や健康についての課題を発見し、解決を目指して協働的に取り組むことができる生徒を育成する。</li> <li>3 主体的に学びに取り組み、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ol>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識・技能が身につけていない生徒が多い。</li> <li>・積極的に学習に取り組むことができる生徒とそうでない生徒が二極化している傾向にある。</li> </ul>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識と技能の習得に対する意識を向上させるために、習熟度テストを活用する。</li> <li>・学習課題を認識させ、その解決方法について協働的に考えさせる。</li> <li>・基本的な生活習慣に関する意識を向上させ、既習したことを実生活において実践させる。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとに小テストを実施し、習熟度や学習の取り組み状況、自身の技能や体力の向上を実感させる。</li> <li>・学習活動や生活習慣をグループで振り返る機会を設け、課題やその解決方法を協働的に考えさせるようにする。</li> <li>・ディスカッションやポスターセッションなど知識を活用する学習活動を取り入れる。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<p>グループで課題に取り組む活動や知識を活用する学習活動を実施した。また、单元ごとにスキルテストや小テストを実施し、学習評価に活用することができた。</p>
達成状況 (1～2月記載)	<p>自身やグループの学習課題に気付き解決を図ろうとする姿が見られる場面があった。しかし、課題を見つけることができず、ただ活動を継続しているという場面も見られた。</p> <p>スキルテストや小テストの実施により、自身の成長を感じた者もいたが、成長を感じ取ることができない生徒もいた。</p>
7年度の課題及び8年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を常に意識させることで、課題解決に向かわせていきたい。また、お互いの課題を見つけ、指摘し合う場면을意識的に設定したい。</li> <li>・学習シートやICTなどを積極的に活用し、生徒の成長を数値や映像などで可視化させて興味、関心を引き出していきたい。</li> </ul>

評価領域	芸術科
------	-----

重点目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。
現 状	音楽との関わり方がスマートフォンを通してのものに偏る傾向が強い。生活の中で音楽を通して表現する機会や友達と関わる経験は少なくなっているように見受けられる。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や文化的背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</li> <li>・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</li> <li>・主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育み、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力に応じた丁寧な技術指導をする。</li> <li>・鑑賞して感じたことや発見したことを発表し合って様々な感性に刺激を受けたり受け入れたりしながら、より深く音楽を味わえるようにする。</li> <li>・話し合いや教え合いの場面を大切にしたり、活動の成果を発表し合ったりしながら音楽の楽しさを十分味わえるようにする。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生4人、1年生3人の少人数であり、昨年度同様の学習内容を基盤としつつ、一人一人の理解度や技能に応じたきめ細かな指導を行った。</li> <li>・特に能力差の大きい器楽分野においては、個別指導を中心に据えながら、生徒同士の教え合いも取り入れ、互いの演奏を聴き合いながら学びを深められるよう工夫した。</li> <li>・鑑賞活動では、生徒の表情や反応を丁寧に把握し、少人数ならではの対話的なやり取りを通して、感じたことや考えを言語化する機会を十分に確保した。</li> <li>・発表会については、練習、発表までの一連の活動を全員で協力して進め、音楽の楽しさや達成感を多角的に味わえるようにした。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校で初めて扱うギターや鍵盤については、少人数による個別指導が有効に機能し、習熟度に応じた段階的な指導によって確実な技能の向上が見られた。それに伴い、表現への意欲も高まった。</li> <li>・表現活動に消極的な生徒であっても、鑑賞や感想交流の場面では、他者の演奏を的確に捉え、自分なりの言葉で意見を述べるなど、豊かな感受性を発揮する姿が見られた。</li> <li>・発表会の取組を通して、話し合って決定する力、互いに教え合う力、成果を披露することで得られる達成感など、多くの力を身に付けた生徒がいた。一方で、時間の使い方や主体的な取組に課題が残る生徒もおり、今後の指導改善につなげたい。</li> </ul>
7年度の課題 及び8年度の 具体的対策	発表の機会を設定したことで、クラスメイトの良さを取り入れながら、一人一人練習に取り組むことができたことは良かった点である。その一方で、曲の難易度や発問の難易度を高くしすぎてしまったことから、自信をなくし、固まってしまう生徒もいたことから、取り組みやすい題材を用意したり、手立てを示したりするなどの工夫をしていきたい。

評価領域	英語科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が主体的・協働的に学習に取り組み、基礎学力の定着を目指す。</li> <li>2 実践的コミュニケーション能力を高める。</li> </ol>
現 状	基礎的な知識が十分定着しておらず、英語に対する強い苦手意識をもつ生徒が多い。また、家庭学習の習慣が十分身につけていない。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業に言語活動を多く取り入れ、生徒の発信力を高める。また、基礎的事項の理解を徹底させ、家庭学習を習慣化させる。</li> <li>2 ペアワークやグループワーク等を通じて、協働的に学ぶ姿勢を育む。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容を生徒にとって身近な話題と関連づけ、興味・関心をもたせる。</li> <li>・スモールステップで学習を進め、生徒に達成感をもたせる。</li> <li>・ペアワークやグループワークなどを取り入れ、生徒が発話し、学び合う活動を増やす。</li> <li>・予習・復習や週末課題や長期休み課題を与え、計画的に学習することの大切さを教える。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT との会話や発表、さらに県内 ALT との「ファンライティング(文通)」など、英語を実際に活用する具体的な場面を設定した。</li> <li>・指導内容をスモールステップ化し、個別指導を丁寧に行った。</li> <li>・内容理解を教員主導ではなくペアワークで行った。コミュニケーションをとりながら協力し、補い合おうとする姿勢が見られた。</li> <li>・教員の助言や支援があれば、課題に取り組み提出することができる。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容を自分事として捉え、表現しようとする意欲を高めることができた。</li> <li>・基礎事項の定着が進んだ。</li> <li>・教員主導からペアワーク中心の授業へ転換したことで、生徒同士がコミュニケーションを通じて補い合い、高め合う学習姿勢が見られるようになった。</li> <li>・自立的・計画的に学習を進められる生徒は少ない。</li> </ul>
7年度の課題及び8年度の具体的な対策	自立的・計画的に学習に取り組める生徒を増やすべく、個々の習熟状況に応じた継続的な声かけを行い、主体的な学習習慣が身につくよう支援していきたい。

評価領域	家庭科
------	-----

重点目標	生活面での自立ならびに家庭生活を営むために必要な基本的知識と技術を身につけ、主体的・協力的に家庭や地域の生活に生かす実践的な態度を育てる。
現 状	学習では実習等に苦手意識を持っており自信のない生徒が多いが、意欲的に取り組む生徒がほとんどである。1年生は内容や指示の理解に時間がかかるが、真面目に粘り強く取り組む生徒が多い。3年生のライフデザインコースでは、苦手なことでも前向きに努力し、仲間と協力しあいながら取り組んでいる。学習したことを積極的に生活に生かすような工夫が必要である。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に即した教材やICTを活用し、興味・関心を高める。</li> <li>・実習や演習などの体験的・課題解決的学習を通して、主体的・協働的な態度を育成する。</li> <li>・資格取得に力を入れ、達成感を味わうことができるようにする。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に即した教材を精選する。探究活動や発表、評価の他基礎技能動画や模擬体験などにICTを有効活用する。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各学年の生徒の実態に応じた教材を精選した。各科目においてタブレットや電子黒板を活用したバラエティ豊かな教材に取り組むことができた。</li> <li>2 各科目で実験や実習、グループワークやペアワーク、発表を適宜取り入れ、生徒が主体的に取り組む場面を多く取り入れることができた。</li> <li>3 食物調理技術検定、保育技術検定、ビジネス文書実務検定、情報処理検定などを実施、提出課題を出すことで、授業時間だけではなく、家庭学習も促し、資格取得に向けて計画的に取り組むことができた。</li> </ol>
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の実態に即した教材を精選し、基礎的知識と技術の習得を目指して取り組んできた。タブレットや電子黒板を活用した授業を適宜実施することで、授業への興味や関心を高められたと思う。</li> <li>2 自分の考えをグループで共有し、意見をまとめて発表する活動は柔軟に対応しなければならない時もある。しかし、さまざまな形態の体験的学習活動を複数回実施することで、協調性、主体的な発言、発表態度等において、生徒の確実な成長を実感している。生徒の自立に向けた学習として有効であると考えている。</li> <li>3 授業内容と検定内容をしっかりとリンクさせながら、知識と技術が結びつくように何度も練習を行った。苦手意識があった生徒も練習を重ねることで、自信をつけて検定に臨むことができた。</li> </ol>
7年の課題及び8年度の具体的対策	<p>[課題] 授業への意欲を高めて持続させることと、単元のバランスとタブレットを活用した教材の精選が課題である。</p> <p>[対策] グループワークや実験・実習等を適宜取り入れ、生徒が主体的に参加する体験型の授業を今後も意識していきたい。また電子教材研究をさらに進め、より生徒の実態に即するようにしていきたい。さらに将来、自立して生きるための力を身につけることができるよう改善を加えながら継続していきたい。</p>

重点目標	福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、福祉の心を育成する。
現 状	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフデザインコース3年生の受講科目である。実習等に積極的に取り組む生徒が多い。</li> <li>2 異なる年齢層の人との関わりが苦手な生徒がいる。</li> <li>3 礼儀正しく、自信を持って行動できる生徒を育成する必要がある。</li> </ol>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもいやりの心を育てると共に、主体的、協力的な態度を育成する。</li> <li>・地域と連携して実践的な学びを充実させる。</li> <li>・ICTを活用し、自主的に問題を解決出来る能力の育成を図る。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験活動や多くの人との関わりから人の気持ちを思いやることの大切さに気付きを持たせ、思いやりの心を育てる。</li> <li>・地域の施設等の協力を得て、各単元において複数回の校外実習を実施する。</li> <li>・探究活動や発表の他、記録や自己評価等にICTを有効活用し、自主的に問題を解決する能力を育成する。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉協議会、社会人講師活用事業、手話学習など地域の人材を活用して専門的な授業を行うことができた。介護福祉士の授業では、コミュニケーション術、ボディメカニクス、車いす実習、排泄、食事介助、認知症サポーター養成講座など、盛りだくさんのプログラムで授業することができた。手話学習では、聴覚障害者の方と手話で日常会話をし、これまで学習した成果を大いに発揮することが出来た。</li> <li>2 校外実習は、2日間特別養護老人ホームウォームハートのデイサービスで実施した。利用者の方と会話をしたり、入浴後の介助をしたりと触れ合い時間を持つことができた。</li> <li>3 実習の記録、自己評価、確認テスト、手話単語の読み取り練習、学習の振り返りなどタブレットを有効活用することができた。</li> </ol>
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会人講師の方のご協力により例年通り多くの校内実習を実施できた。社会人の方の講義を通してより専門的な内容の授業を実施することができた。</li> <li>2 今年度もウォームハート1か所での実習となったが、利用者の方とデイサービスでの触れ合いについて配慮していただいた。実習依頼から、マナー指導、生徒の礼状作成まで準備は大変であったが、生徒にとっては実りある授業となった。</li> <li>3 個々の活用だけでなく、ICTを用いて、グループやペアワークを実施することで考えを深めることができ、まとめや発表も自信をもって行うことができた。</li> </ol>
7年度の課題及び8年度の 具体的対策	<p>〔課題〕校外実習については、生徒数の減少により大仙市のバス利用が叶わず、生徒の実習機会が1施設失われたことが残念である。一方、受け入れてくださった施設については、複数回の交渉・生徒への事前・事後指導・教師側の事前準備等の負担が大きいが、生徒にとって得るものが大きく、今後も実習の機会を保ちたい。生徒の主体性を養うためのICTの活用を含めた授業の工夫と教材の精選が今後も必要である。</p> <p>〔対策〕校外実習は、学校外の場所で、様々な方と触れあう体験活動を通して自ら気付き学ぶ貴重な活動である。実りある実習ができるように早い時期からの生徒への指導・教師側の準備を行って意識を高めていきたい。実習・体験した知識が、家庭や各場面で実践できるよう今後も教材や実習の精選をしていきたい。</p>

評価領域	商業科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 商業科目に興味を持たせ、経済社会の一員としての基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。</li> <li>2 経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。</li> <li>3 ビジネスマンとしての立ち振る舞いを意識し、実践させる。</li> </ol>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつだが、資格取得に対する意欲を高めて目的を持って授業に臨んでいる。</li> <li>・世の中のニュースに対して、自分の意見を述べる事が出来る。</li> </ul>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法の工夫に加え、学習の手段として資格取得に積極的に挑戦させる。</li> <li>・ビジネスに関する世の中の問題を明確にし、自ら考え、実践する態度を養う。</li> <li>・ビジネスに対する心構えや倫理観を育成するため、毎時の授業でルール・マナーを徹底し、整容面も正させる。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力に合わせて補習や個別指導を充実させる。</li> <li>・小テストを実施し、振り返りの家庭学習を習慣づけさせる。</li> <li>・授業時の身だしなみを徹底すると同時に、なぜ整容面を正すのかを考えさせる。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中や検定前に、課題や補習を実施した。</li> <li>・新聞やネットニュースを授業の導入として取り入れ、内容の要約やわからない言葉を調べさせた。</li> <li>・Google でデータを共有し、資料やレポートを作成させた。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習の出席率はあまり良くなかったが、課題の提出については2年次の時に比べてかなり改善した。そのせいか、苦手分野を克服して検定に合格することができた。</li> <li>・ニュースを継続して読んでいくうちに、世の中の変化を理解し自分の考えをまとめるなどできるようになった。</li> <li>・レポートの期限や、作成の形式を細かく指示し、ビジネスとして守るべきことを意識させることができた。</li> </ul>
7年度の課題及び8年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定試験について、全商では人数が集まらず実施が難しくなってきた。他団体が主催する検定で生徒の実態に合わせて実施できるものを探さなければならない。</li> <li>・カリキュラムの変更で、商業科目の時数がかなり減るので、内容を精査しなければならない。</li> </ul>

評価領域	情報科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会との関わりについて理解を深める。</li> <li>2 様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</li> <li>3 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</li> </ol>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を積極的に発言できる生徒が多い。情報機器を使った作業（ログイン、保存、ローマ字入力等）については、T T でなければ難しい状況である。しかし、一生懸命取り組み、少しずつ能力を身につけている</li> </ul>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータやデータの活用について理解を深め、学んだことをあらゆる場面で活用させる。</li> <li>・コンピュータやデータの活用について理解を深め、身近な事象と情報を結びつけて、情報技術を適切かつ効果的に活用する能力を高める。</li> <li>・教材を工夫し、達成感を味わうことができるようにする。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなソフトウェアの基本的な操作を身につけさせ、場面にあった活用が出来るように考えさせる。</li> <li>・日常をプログラミングの面から考えさせる機会を設ける。</li> <li>・基礎・基本をしっかりと身につけられる教材を精選する。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科や行事等と連携することで、いろいろなソフトウェアの基本的な操作を体験し、P C とタブレットの互換性なども説明しながら活用させた。</li> <li>・日常生活と情報機器の関連性を意識させ、他者と話し合いながら意見をまとめ発表する機会を作ることを心がけた。</li> <li>・W e b コンテンツのクイズを使って、合格ラインに達するまで繰り返し取り組ませた。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科や行事等と連携したことで、タブレットを使う機会が増え、スムーズに使いこなしていた。</li> <li>・プログラミングの学習では、アルゴリズムを言葉で表現することの難しさを実感して、正しく伝えることに一生懸命取り組んでいた。</li> <li>・長期休業中の課題や小テストを実施して、こまめに評価することができた。</li> </ul>
7年度の課題及び8年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路が専門学校または就職がほとんどのため、共通テストに対応できる状態ではない。進路目標が決定した生徒から、早めに共通テストに向けて、2年次・3年次で継続してW e b コンテンツや補習を実施する必要がある。</li> </ul>